# 廣畑裕子さん（小高を応援する会　3B＋1）

## ■ 活動内容

南相馬市小高区を訪れた方々に気軽に交流してもらう居場所「おだかぷらっとほーむ」を運営しています。また、小高の今を伝えるためにWEB発信や情報誌「おだかだより」の発行もしています。

## ■ 活動を始めたきっかけ

自分は小高区住民で、周りは津波で被災しました。原発事故で避難指示が出て、鹿島区の仮設住宅に避難しています。避難すると、やりたいことが分からない、思いついてもやって良いか分からない気持ちになります。やりたいことを表現できないことが「被災」と認識しました。

そこから、「とりあえずやってみよう」という気持ちで、仮設住宅の敷地で退職金をつぎこんでビニールハウスを建て農園を造り始めました。ノウハウは全くありませんでした。

また、小高に戻れるようになって、「明かり、営みのある風景」がなくなったことに気づき、「小高に明かりをつけたい」と「おだかぷらっとほーむ」の運営を始めました。まずは、小高を訪れた方々が「あれは何？」と思ってもらうことが目的でした。最初はボランティアなど県外からの人の割合が多かったですが、段々と小高の人が増えてきました。ぷらっとほーむの運営については、南相馬市の助成を受けています。

「元々、小高はe-まちタクシーというデマンド交通発祥の地になるくらい住民活動が盛んだった。」と語る廣畑さん

ユーモアが楽しい「おだかぷらっとほーむ」入口（上）と「小高のアビーロード」ポスター（左）

# 復興のパイオニア（復興女子編）



## ■ 活動を通じて思うこと

農園もぷらっとほーむも、とにかく始めてみました。やってみたら大変でした。でも、自分ではできないことが多いので、様々な方々に手伝ってもらいました。「今、忙しいんだけどな。」と言われながら、手伝ってもらったことで交流が始まりました。

情報誌も、きれいに作りすぎるとかえって伝わりにくくなり、ダメだったりします。

「嫌々、渋々」の方がうまくいくこともあると思います。例えば、町の草刈りも嫌々でも続けることで、コミュニティが作られたりします。

自分は小高13,000人の１人に過ぎません。小高は、今、住民自身が帰還するか否かを決めないといけない時期だと思いますが、住民の判断材料になるよう、自分と異なる考えを持つ人も含め、自分のような活動が乱立していく必要があると思います。

今は、どこもボランティアなので人手不足、とにかく人が必要です。また、これまで特にPRをしなくても良いと思っていましたが、今は必要かなと感じています。

手作り感が、気軽に立寄れる雰囲気を生み出している「おだかぷらっとほーむ」内部

「広めたいので、新幹線座席にこっそり置き忘れてください。」とユーモアを交えて渡された情報誌「おだかだより」

## ■ 復興庁について

新しいものを呼び込むことも大事ですが、震災直後から継続活動しているものを応援する方がずっと良くなると思います。

*訪問の際には、廣畑さんの想いの込められたビデオも拝見しました。二ヶ国語で、You Tube（「福島第一から20キロ　南相馬市小高への想い」）で閲覧できます。よろしければご覧ください。*